

2023
5・22 月4回
月曜日発行
第1294号

週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所
〒104-0061
東京都中央区銀座7-17-12 2F
TEL 03 (3543) 7421
FAX 03 (3543) 5839
発行人 垂澤清三
年間購読料 33,000円(税込)
KAMEOKA NEWS AGENCY CORPS
亀岡大郎取材班グループ

ソーコに学ぶ ビル経営



イーソーコ総合研究所
代表取締役 出村 亜希子
奈良女子大学大学院修了後CM
会社を経て現職。一級建築士、
宅建士。「倉庫ドクター」とし
て建築面からオーナー支援に取り
組む。

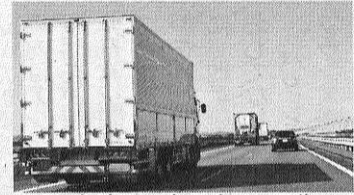
労働時
間に制限
がかかる
と、これ
までのよ
うな一人
のドライ
バーによ
る長距離
輸送はで
きなくな
ります。
この課題
を乗り越
える具体
的な方策
として期
待されて
いるのが
「中継輸
送」です
。ただし
、中継輸
送の実現
にはいく
つかハド
ルがあり
ます。例
えば、「ど
こで貨物
を積み替
えるか(中
継輸送場
所の設定)
」、「誰
が中継輸
送を行う
のか(パート
ナーの選
定)」、「
どうやって
貨物の積
替を行う
のか(荷役
実施の課
題)」とい
ったもの
です。
そうした
課題に対
し協同組
合は、1社
で解決を
目指すの
ではなく
、業者連
携によっ
て対応す
るサービ
スを生み
出します
。それが
中継拠点
のシェア
リングサ
ービス「
シェア・
クロス」
です。
「シェア
・クロス」
は、地方
から首都
圏へ長距
離輸送を
運送する
事業者な
どが、荷
物を積み
替えたり
仮置きし
たりする
中継輸送
拠点とし
て参加企
業の物流
施設に付
随するヤ
ードを共
同利用で
きるサー

第60回「物流の2024年問題とシェアリングの取り組み」

EC利用の定着で、物流が私たちの生活に欠かせないものだと意識することが知られてきました。しかし便利なサービスの中にはトラックドライバーの長時間労働の慢性化があります。働き方改革関連法の施行で時間外労働時間に上限が課せられる「2024年問題」が間近に迫る今、物流業界では労働生産性の向上が喫緊の課題となっています。

当社グループも参加する物流不動産協同組合においても、協働物流部会を立ち上げ、「ドライバーの拘束時間削減」、「輸送コスト削減」、「CO2排出量削減」、「高齢化などによるドライバー不足への対応」の4点を重要テーマに掲げ、対策を検討してきました。

的なる方策として期待されているのが「中継輸送」です。ただし、中継輸送の実現にはいくつかハードルがあります。例えば、「どこで貨物を積み替えるか(中継輸送場所の設定)」、「誰が中継輸送を行うのか(パートナーの選定)」、「どうやって貨物の積替を行うのか(荷役実施の課題)」といったものです。そうした課題に対し協同組合は、1社で解決を目指すのではなく、業者連携によって対応するサービスを生み出します。それが中継拠点のシェアリングサービス「シェア・クロス」です。「シェア・クロス」は、地方から首都圏へ長距離輸送する運送事業者などが、荷物を積み替えたり仮置きしたりする中継輸送拠点として参加企業の物流施設に付随するヤードを共同利用できるサー



▲課題解決の一助に (イメージ)